

## 足立区の地域課題について（事前アンケートまとめ）

委員の皆様より、日頃の相談支援活動をとおして感じている足立区の地域課題を事前にうかがいました。いただいた項目を下記のとおり整理しました。

### 【相談体制】

- 相談内容の多様化、複雑化
- 寄り添い支援の必要性
- 計画相談事業所・相談支援専門員が少ない
- 福祉部と衛生部の給付の差
- 相談支援事業所の不足
- 相談支援事業所（相談支援専門員）数が少ない（サービス受給者数の需要に見合わない）
- 計画相談において精神と他の障害で手続きの流れが異なっており分かりづらい
- 基幹相談支援センター（以下「基幹」）に求められる区の体系が整理されていない
- 行政の異動ルール等により基幹には主任相談支援専門員の配置が困難
- 人口規模、障害福祉サービス受給者数に比して基幹の数が少ない
- ステージの変わり目（縦のつながり）での切れ目ない支援が十分ではない
- 相談支援事業所の横のつながりが十分ではない（基幹が他事業所情報を知らない）
- サービスを必要とする転入者や新規相談者の相談ルートが確立されていない

### 【支給決定及びサービス開始】

- サービスの決定があっても、ヘルパー不足等により利用まで至らない
- 福祉サービスの支給決定のスピード・判断が援護係、精神保健係で違いがあり対応に苦慮する
- 特に支給決定が遅く、タイムリーな支援が難しいことが多い
- 車いすを使っている方の通所先が少ない
- 高次脳機能障がい（特に地誌的障がいがある方）の移動支援が使いづらい
- 精神（精神・発達・高次）は他の障害と比較し移動支援の利用に制限がある

### 【高齢化】

- 当事者、家族の高齢化が進む中、母子のつながりが強いとサービス利用が少なく、緊急性が高くなる
- 親子の高齢化
- 介護保険への移行
- 福祉サービスにつながらない当事者を24時間抱えて体力的・経済的に疲弊している高齢の親の支援について
- 障がいと介護の連携

#### 【体験の機会・グループホーム】

- GH 体験の場が少ない
- GH 入居を前提としない体験利用の機会が持ちにくい
- 親亡き後当事者が地域で安心して暮らすことができるための支援体制について
- 自立に向けての住まいの確保（障害があると断られる、保証人がいない）について
- グループホームの拡充（身体的ケア・見守り対応）

#### 【緊急対応】

- 緊急時の受入れ、対応（精神）の支援体制の不足（家族の高齢化・不在時・介護等）
- 足立区の地域資源のみでは日中活動（生活介護）や緊急時の対応が賄えない

#### 【多職種連携】

- 障がい種別、援護と生保、障がいと医療、障がいと高齢といった複数合わさるケースの連携、取りまとめなどが難しい（進めにくい）
- 医療のサポート、連携、介入について（医療の中断）

#### 【人材育成】

- 人材育成を行う取り組みが少ない（事例検討の場など）
- ピアサポート活動（今後、ピアサポート専門員の育成などが求められるのでは）の不足
- 相談支援専門員の質の向上

#### 【その他】

- 個別化の要望が増加傾向で事業所側の対応が困難に
- コロナ禍での様々な影響（サービスが使えない人とのつながりが薄れる）
- 当事者が受診拒否、服薬中断をしている場合の支援について
- 精神疾患は思春期の発生が多いことから早期発見、早期支援の仕組みについて
- 障害福祉サービスの間隙の支援の担い手について
- 未治療の方、または、サービスにまだつながっていない方へのアプローチ
- 社会資源は豊富であるが情報共有システムが不十分
- 住所で支援が制限される
- 公的サービス以外の民間、ボランティアな資源の情報が少ない
- 行政で基幹や就労支援センターを実施していること（機動力を妨げている）